2026 年 8 月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回のてがたんは 9 月 12 日（土）で、テーマは「てがたんオノマトペ」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さま、次回の下見は 9 月 6 日（日）です。

8 月の観察コースと内容

- コース：熱中症警戒アラート発令のため、室内観察会として実施
- 観察日時／天気：2026 年 8 月 8 日（土）10：00～12：00 ／晴れ
- 参加人数：9 名（大人 8 名、子ども 1 名）
- 市民スタッフ：5 名（石原直子、伊東茂子、小泉伸夫、古澤紀元、松田由美子）
- 鳥博職員：1 名（**脇水徳之**）

― 観察した生き物の記録 ―

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カモ科：カルガモ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／ツバメ科：ツバメ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ムクドリ科：ムクドリ／スズメ科：スズメ
家禽や外来種：ドバト（ハト科）

【昆虫】トンボ目：ウスバキトンボ、コシアキトンボ、コノシメトンボ、シオカラトンボ／バッタ目：ショウリョウバッタ／カメムシ目：キマダラカメムシ、チュウゴクアミガサハゴロモ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、ミンミンゼミ／チョウ目：アオスジアゲハ、ジャコウアゲハ幼虫・成虫、ナガサキアゲハ、ヒカゲチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ／コウチュウ目：キマワリ、ヤノナミガタチビタマムシ／ハチ目：アシナガバチの仲間、アナバチの仲間、コガタスズメバチ、クロヤマアリ

【クモ類】オニグモ、コガタコガネグモ、ゴミグモ

【その他】ヒガシニホントカゲ、フトミミズの仲間、ウスカワマイマイ（殻）、ミスジマイマイ（殻）、オカダンゴムシ、トビズムカデ、ヤスデの仲間

【草の花】スベリヒユ科：スベリヒユ／カタバミ科：カタバミ／ブドウ科：ヤブガラシ／アカバナ科：アカバナユウゲショウ／クマツヅラ科：クマツヅラ／キク科：ブタナ、ノゲシ／ツユクサ科：ツユクサ／イネ科：セイバンモロコシ／トウダイグサ科：コニシキソウ

【縄文時代の地層由来と考えられる貝化石】シジミ科：ヤマトシジミ／ニッコウガイ科：サラガイ／マルスダレガイ科：アサリの仲間、ハマグリ／リュウテン科：サザエ

【木下層（約 12 ～ 13 万年前）由来と考えられる貝化石】タマキガイ科：タマキガイ、エゾタマキガイ／バカガイ科：オオトリガイ／マルスダレガイ科：キオロシアサリ、アサリの仲間

【国内の海洋底泥層（約 1,000 万年前）から産出した微化石】浮遊性有孔虫：グロビゲリナ科（2 種）／底生有孔虫：ノニオン科（3 種）、*Buccella* 属（2 種）、*Bulimina* 属（1 種）、*Cassidulina* 属（1 種）、*Cibicides* 属（1 種）、*Cibicidoides* 属（1 種）、*Trifarina* 属（1 種）、*Uvigerina* 属（1 種）、属不明（2 種）／放散虫：*Lychnocanoma* 属（1 種）、コロダリア目（1 種）／貝形虫：属不明（2 種）／珪藻：*Actinoptychus* 属（1 種）／石灰質ナンノ：ハプト藻類の仲間（1 種）／不明化石：17 点

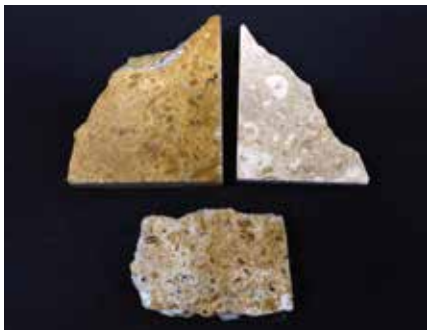
2026年 8月の観察アルバム



今回のテーマは「土の中の古代アート」でした。千葉県の地面を構成する下総層群の中で、約 12 ～ 13 万年前に形成された木下層は、千葉県印西市を中心に広く露出しています。今回は、博物館周辺の木下層から産出する貝化石や、身近な石材に含まれる化石を観察しました。その後、過去の海洋泥堆積物から取り出した有孔虫の殻の微細な形を電子顕微鏡で観察しました。



今月の案内人
脇水 徳之



❶研磨剤で磨いた大理石。大型有孔虫（フズリナ）の化石が多く含まれている。



❷博物館周辺の土から産出したエゾタマキガイの殻の表面。殻頂がややとがる。

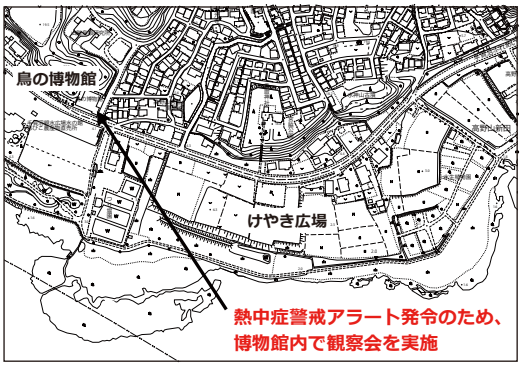


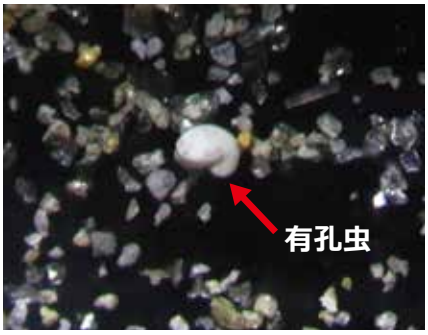
❸エゾタマキガイの殻の裏面。蝶つがいの左右に、鉸歯（こうし）が多く並ぶ。



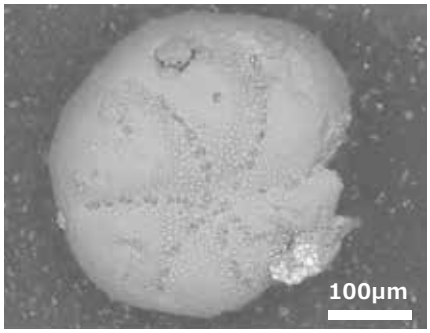
❹木下層上部の化石を代表するキオロシアサリ。殻が前後に細長いことが特徴。

歩いたルートと観察した生き物

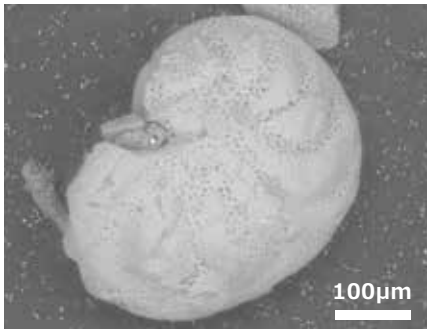




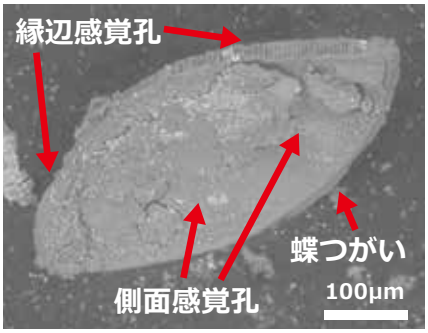
❺約 1,000 万年前の海洋泥堆積物には、有孔虫などの微少化石が含まれている。



❻電子顕微鏡で撮影した有孔虫の殻。うずまき型の殻に微少な孔が見られる。



❼別の種類の有孔虫の殻。殻の巻き方や高さ、孔の開き方に違いが見られる。



❽貝形虫の殻の内側。二枚貝に似た蝶つがい構造や、多くの感覚孔が見られる。

今月の鳥　過去の手賀沼周辺に暮らしていた鳥

鳥の骨は薄くて脆いため、土に埋まる過程で破断・溶解され、化石として残ることは稀です。千葉県北部地域の一部では、貝殻の多いアルカリ性の地層や土壌から鳥の骨が産出しています。

印旛沼周辺地域の後期更新世（約 12 ～ 1 万年前）の地層からは、アビ科の化石が見つかっています（小野ら 1984）。

また、我孫子市内にある縄文時代（約 4,000 ～ 2,300 年前）の貝塚からは、1,000 点を超える鳥の骨が出土し、その 7 割をカモ類が、2 割をカイツブリ類が占めます（我孫子市教育委員会 2022）。

これらの骨の記録は、過去の手賀沼は太平洋と繋がった海の一部で、周辺に多くの水鳥が生息していたことを示唆します。



冬鳥として飛来する魚食性のアビ



貝食で知られるスズガモ